



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 268 号 2026/ 9

岡山城と宇喜多秀家、内田百閒 旭川伏流水と雄町米、路面電車

■9月12日シンフォニーホール東で、岡山 JC により雄町米をテーマにイベントが開催される。RACDA では路面電車環状化と内田百閒をテーマにした岡山城・百閒生家の模型レイアウトを展示運転する。

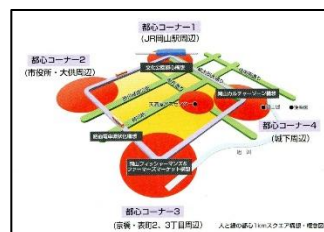
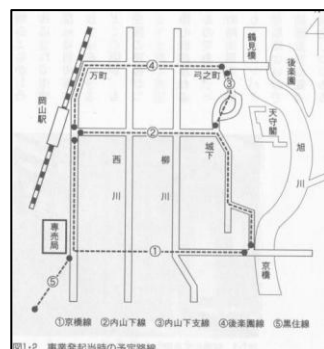
■岡山駅と路面電車 岡山駅は1891年岡山城下町はずれに山陽鉄道の駅として開業。1926年に新駅舎に改装。現駅舎は1972年新幹線開業時の3代目。日本でも有数の交通結節点。路面電車は1912年、駅前から後楽園前まで開業、同じ頃後楽園の東側に西大寺軽便鉄道開業。すぐに西大寺町までも開業、京橋からの高松航路と接続した。路面電車は岡山市の中心の表町商店街と岡山駅をつなぐ機能が一番で、表町商店街の繁栄を支えた。1949年には天満屋バスステーションが開業、四方八方からバスが乗入空前の活況を呈した。路面電車環状化は開業当初から計画があり、その計画をアレンジしたのが岡山商工会議所の都心1kmスクエア構想である。

■岡山駅から城下の西手櫓 西川は1615年池田忠雄時代に、用水路を外郭堀として整備。清輝橋線の走る柳川筋は、小早川秀秋時代に岡山城の外堀として整備し、二十日堀ともいう。表町商店街西には中堀があり、城下筋は岡山城の内堀であった。岡山城西之丸の西手櫓は1603年(徳川幕府開府の年)に竣工した。櫓前の内堀は特に広く、西への抑えとなる。隣の禁酒会館は1923年に建設、西手櫓と共に1945年の岡山空襲でも焼け残った。

■岡山城と宇喜多秀家 戦国武将の宇喜多直家は浦上氏の有力武将で西大寺の乙子城を皮切りに勢力を拡大。沼城から平野の真ん中の岡山城に移った。一時毛利氏の勢力下に入るが、織田方につき、1582年高松城水攻め直前に亡くなった。跡継ぎの宇喜多秀家は秀吉の後見のもと、1597年岡山城を築城。その天守閣は「金鳥城」とも呼ばれ、黒壁と金箔で彩られた「豊臣政権のデザイン」だった。岡山城は空襲で焼失したが、1966年に再建。その後1997年と2022年の二度にわたり大改修された。

■表町商店街と京橋 岡山の城下町づくりでは、備前一の都会、瀬戸内市長船の福岡の市から多くの商人を呼んだ。表町の上之町・中之町・下之町は「福岡上之町」等だった。また西大寺町や片上町もある。直家や信長など戦国大名は「楽市楽座」という交易都市をつくり、人と産業を集め、経済力をつけた。秀家は北を通る山陽道を城下町に引き込んだ。京橋は秀家時代に現在地に掛けられ、1673年から1873年までに6回も架け替えられた。岡山城下町の物流拠点として、繁栄し、旅籠なども沢山あった。明治になって汽船が入り、山陽鉄道開業で四国連絡の中心となり、1910年の宇野線開業までが最も栄えた。その賑わい復活を目指して岡山未来デザイン委員会では「備前京橋朝市」(1989年)を始め、京橋朝市をはじめ、岡山城築城400年(1997年)、後楽園300年(2000年)の記念事業と路面電車環状化を「ネオ商業エリア構想」として提案。RACDAの運動も、岡山城下町の顕彰を進め、明治時代に開通した路面電車を使って城下町を回遊させようとするものだった。

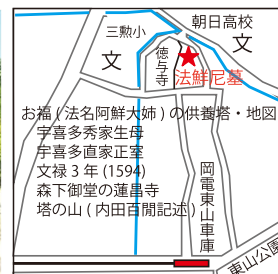
■東山線開業 京橋に汽船就航後、旭東地域の開発が進んだ。1923年に京橋を拡幅して旭東線(東山線)が開業した。城下町から



京橋を通過して山陽道が延びていたが、1900 年古京に第六高等学校が開校、また岡山師範学校や山陽女学園もでき、1923 年三軒小学校開校。文教地区として発展した。開業後 50 日間、東山公園では納涼市が開催され大盛況となった。東山線開業で市街地は大きく拡大、終点の東山には偕楽園という健康ランドや動物園もあった。

■玉井宮 1645 年岡山藩主池田光政は、岡山城下町の総鎮守として、徳川家光の特別許可をもらって東山の玉井宮に東照宮を勧進。玉井宮の秋祭りの歌は、「備前岡山西大寺町、大火事に、今屋が火元で五十五軒」と。1970 年代までは川東の数十の壇尻が電車通り(新道・大道)を埋め尽くした。

■お鮮供養塔 才色兼備な宇喜多秀家の生母お福(お鮮)は、「お鮮さまのお墓を見れば、さても結構なお墓でござる」と手毬歌に語り継がれた。始めの夫勝山城主三浦貞勝が落城自刃後、宇喜多直家に見い出されて正室となり、直家没後は高松城水攻めに来た羽柴



秀吉に見染められ、後に大阪城に招かれて備前屋敷を与えられた。秀吉は秀家を自分の猶子とし、養女として育てた前田利家の娘豪姫を娶せて、岡山城を作らせ五大老の一人にしたのも、お福の存在無しには語れない。お鮮供養塔には文禄三年(1594)の文字があり、蓮昌寺の過去帳には法名阿鮮大姉とある。宇喜多時代に蓮昌寺は森下の御堂にあり、内田百閒が塔の山と書いたこの徳与寺の境内にお墓があるのかも。関ヶ原で東軍の実質的統率者となった秀家は八丈島に流された。大河ドラマでもお福が登場する。

■明石掃部全登(かもんてるずみ) 全登は秀家家臣団分裂の宇喜多騒動以降、宇喜多の家宰といい仕切った。1600 年の関が原の戦では、秀家は西軍として 17000 人を率い、全登は内 8000 人を率いた。敗戦後、全登は秀家を八丈島に逃がす段取りもした。キリシタン大名の一人。浪人後、大坂夏の陣で大活躍し、現代でも人気の武将。

■内田百閒「阿房列車」で有名な名随筆家の内田百閒(1889 年～1972 年、漱石の弟子)の生家は、岡山城・後楽園近くの古京町の造り酒屋「志保屋」であった。最初の京橋の東詰めが「京町」であった。古京町近くも旭川の伏流水が流れ、明治時代に天皇行幸に際して名水を探していた時、百閒生家の井戸も候補となったが、雄町に負けた。志保屋は雄町に小作地の田地を所有、おそらくは雄町で作った米を醸造に使っていた。文壇の借金王・百閒がお金に困った大正時代、その田地を売った話が日記に出てくる。



■雄町の名水と雄町米 弥生時代初め以来、旭川の氾濫原が平野を作っていく。竜の口山と操山の間には百閒川遺跡群等の沢山の弥生遺跡群が存在し雄町遺跡もある。平野の地下には今も豊かな旭川の伏流水が流れており、雄町の銘泉もある。現代では雄町米は、日本有数の酒米とされるが、1859 年に上道郡高島村字雄町の農家が発見したとされる。百閒の祖父・栄造が志保屋を経営している時代で、いち早く雄町米を使っていたかも。雄町米は酒造りに適した特徴を持っており、岡山で圧倒的に栽培されている。

■文化のインキュベーション・旭川 岡山都心には岡山城・後楽園といった、市民が誇りに思える抜群の歴史遺産がある。その旭川周辺の水辺の空間は、市民の憩える癒される空間であり、明治時代の先人たちは、ここに第六高等学校(岡大前身 1900 年)や岡山医学専門学校(岡大医学部前身 1901 年)を誘致した。そのために岡山では上水道を整備(今の三野浄水場 1905 年)、相生橋も池田家が寄付して出来た。百閒はその当時の岡山のまちづくりの取組を活写している。

NPO 法人公共の交通ラダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail: info@racda-okayama.org

URL: http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索

